

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成29年4月13日
【四半期会計期間】	第35期第3四半期(自 平成28年12月1日 至 平成29年2月28日)
【会社名】	株式会社コスモス薬品
【英訳名】	COSMOS Pharmaceutical Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宇野 正晃
【本店の所在の場所】	福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目10番1号 第一福岡ビルS館4階
【電話番号】	092 - 433 - 0660 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 柴田 太
【最寄りの連絡場所】	福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目10番1号 第一福岡ビルS館4階
【電話番号】	092 - 433 - 0660 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 柴田 太
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第 3 四半期 連結累計期間	第35期 第 3 四半期 連結累計期間	第34期
会計期間	自 平成27年 6 月 1 日 至 平成28年 2 月29日	自 平成28年 6 月 1 日 至 平成29年 2 月28日	自 平成27年 6 月 1 日 至 平成28年 5 月31日
売上高 (百万円)	327,803	370,567	447,273
経常利益 (百万円)	14,933	19,109	20,691
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	9,202	12,579	12,435
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	9,217	12,655	12,361
純資産額 (百万円)	73,034	87,448	76,179
総資産額 (百万円)	188,240	208,073	202,595
1 株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	464.77	635.36	628.05
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.8	42.0	37.6

回次	第34期 第 3 四半期 連結会計期間	第35期 第 3 四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年12月 1 日 至 平成28年 2 月29日	自 平成28年12月 1 日 至 平成29年 2 月28日
1 株当たり四半期純利益金額 (円)	154.77	196.78

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第 3 四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成28年6月1日～平成29年2月28日）におけるわが国の経済は、不安定な国際情勢により、先行きが不透明な状況が続いております。また、将来に対する不安等で個人消費は力強さを欠き、消費者の低価格志向はますます強くなっております。

このような状況の中、当社グループは消費者にとって「安くて、近くて、便利なドラッグストア」を目指して力を注いでまいりました。具体的には、単純化・標準化・平準化を行うことによって店舗運営コストを抑制し、「毎日安い（エブリデイ・ロー・プライス）」政策に磨きをかけてまいりました。つまり、ごく限られた期間の「派手な安さ」ではなく、ご来店いただく全てのお客様が「安心の低価格」をいつも実感できるような店舗運営を目指しました。

また、自社競合による一時的な収益性の低下も厭わず、次々と新規出店を行いました。同時に、新商勢圏への店舗網拡大も図ってまいりました。これにより、新規出店につきましては、中部地区に2店舗、関西地区に9店舗、中国地区に16店舗、四国地区に6店舗、九州地区に25店舗の合計58店舗となりました。また、スクラップ＆ビルド等により5店舗を閉鎖し、当第3四半期連結累計期間末の店舗数は791店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,705億67百万円（前年同四半期比13.0%増）、営業利益は173億74百万円（同29.4%増）、経常利益は191億9百万円（同28.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は125億79百万円（同36.7%増）となりました。

なお、当社グループは事業区分が単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は2,080億73百万円となり、前連結会計年度末に比べて54億77百万円増加いたしました。この主な要因は、有形固定資産が145億49百万円、商品が4億95百万円、敷金及び保証金が3億31百万円増加し、現金及び預金が102億88百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は1,206億24百万円となり、前連結会計年度末に比べて57億91百万円減少いたしました。この主な要因は、買掛金が17億59百万円、長期借入金及び1年内返済予定の長期借入金が38億30百万円、未払法人税等が6億58百万円減少したこと等によるものであります。

純資産は874億48百万円となり、前連結会計年度末に比べて112億69百万円増加いたしました。この主な要因は、利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	59,600,000
計	59,600,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年2月28日)	提出日現在発行数(株) (平成29年4月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,000,400	20,000,400	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	20,000,400	20,000,400		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年12月1日～ 平成29年2月28日		20,000,400		4,178		4,610

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,795,100	197,951	
単元未満株式	普通株式 4,500		1 単元(100株)未満株式
発行済株式総数	20,000,400		
総株主の議決権		197,951	

(注) 単元未満株式欄の普通株式には、自己株式33株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社コスモス薬品	福岡市博多区博多駅東二 丁目10番1号 第一福岡ビルS館4階	200,800		200,800	1.0
計		200,800		200,800	1.0

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年12月1日から平成29年2月28日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年6月1日から平成29年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年 5 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成29年 2 月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,282	16,994
売掛金	28	35
商品	38,093	38,588
貯蔵品	134	135
その他	5,366	5,922
流動資産合計	70,905	61,675
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	87,281	96,963
土地	12,601	15,566
その他（純額）	14,580	16,483
有形固定資産合計	114,463	129,012
無形固定資産	332	230
投資その他の資産		
敷金及び保証金	11,556	11,888
建設協力金	3,629	3,583
その他	1,708	1,682
投資その他の資産合計	16,894	17,154
固定資産合計	131,690	146,398
資産合計	202,595	208,073
負債の部		
流動負債		
買掛金	82,472	80,712
1年内返済予定の長期借入金	4,951	4,486
未払法人税等	4,682	4,023
店舗閉鎖損失引当金	47	116
その他	11,303	11,879
流動負債合計	103,457	101,219
固定負債		
長期借入金	16,234	12,869
退職給付に係る負債	623	605
資産除去債務	1,459	1,495
その他	4,641	4,434
固定負債合計	22,959	19,405
負債合計	126,416	120,624

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年 5 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成29年 2 月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,178	4,178
資本剰余金	4,610	4,610
利益剰余金	67,745	78,939
自己株式	237	238
株主資本合計	76,297	87,490
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	1
退職給付に係る調整累計額	120	43
その他の包括利益累計額合計	117	41
純資産合計	76,179	87,448
負債純資産合計	202,595	208,073

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年6月1日 至 平成28年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)
売上高	327,803	370,567
売上原価	264,180	296,132
売上総利益	63,622	74,434
販売費及び一般管理費	50,200	57,060
営業利益	13,422	17,374
営業外収益		
受取利息	67	64
受取手数料	415	451
不動産賃貸料	808	1,074
固定資産受贈益	258	223
その他	454	587
営業外収益合計	2,004	2,400
営業外費用		
支払利息	65	74
不動産賃貸原価	396	564
その他	31	25
営業外費用合計	493	665
経常利益	14,933	19,109
特別利益		
受取保険金	-	¹ 1,073
受取補償金	-	² 196
補助金収入	511	281
特別利益合計	511	1,551
特別損失		
固定資産除却損	45	25
災害による損失	-	³ 204
店舗閉鎖損失	35	63
店舗閉鎖損失引当金繰入額	18	116
特別損失合計	99	409
税金等調整前四半期純利益	15,345	20,251
法人税等	6,143	7,671
四半期純利益	9,202	12,579
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,202	12,579

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年6月1日 至 平成28年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)
四半期純利益	9,202	12,579
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	1
退職給付に係る調整額	8	77
その他の包括利益合計	14	76
四半期包括利益	9,217	12,655
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,217	12,655

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 受取保険金は、平成28年4月に発生した「平成28年熊本地震」に伴う店舗設備及び商品被害等に係るものがあります。
- 2 受取補償金は、収用に伴う店舗移転補償金等であります。
- 3 災害による損失は、平成28年4月に発生した「平成28年熊本地震」による損失を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年6月1日 至 平成28年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)
減価償却費	6,914百万円	7,806百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年6月1日 至 平成28年2月29日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年8月21日 定時株主総会	普通株式	643	32.50	平成27年5月31日	平成27年8月24日	利益剰余金
平成28年1月13日 取締役会	普通株式	593	30.00	平成27年11月30日	平成28年2月15日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年8月25日 定時株主総会	普通株式	692	35.00	平成28年5月31日	平成28年8月26日	利益剰余金
平成29年1月11日 取締役会	普通株式	692	35.00	平成28年11月30日	平成29年2月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年6月1日 至 平成28年2月29日)

当社グループは医薬品・化粧品等の小売業という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)

当社グループは医薬品・化粧品等の小売業という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年6月1日 至 平成28年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額	464円77銭	635円36銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	9,202	12,579
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	9,202	12,579
普通株式の期中平均株式数(株)	19,799,618	19,799,574

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

平成29年1月11日開催の取締役会において、第35期(平成28年6月1日から平成29年5月31日まで)中間配当について、次のとおり決議いたしました。

配当金の総額	692百万円
1株当たりの金額	35円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年2月14日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 4 月10日

株式会社コスモス薬品
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹之内 高 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寺田 篤 芳 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社コスモス薬品の平成28年6月1日から平成29年5月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年12月1日から平成29年2月28日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年6月1日から平成29年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社コスモス薬品及び連結子会社の平成29年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。